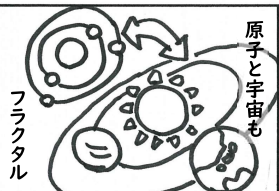
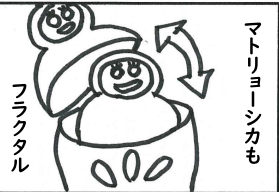
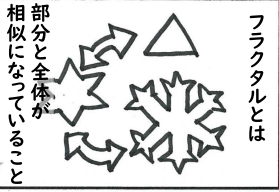




ふらくたる？

コラルトにて今後のコミュニティ・デザインを実践していくにあたって、今回はそのベースとなる2つのコンセプトをご紹介します。
ちょっとブツ飛んでる？・・・いえいえ、これは実にマジメなお話です。

コラタン tailor



その① 基本は波動と確率～科学と宗教・哲学の収斂～

大前提として「科学」とは「分けて」いくことで真理を追究しようとする学問です。

最新の科学である量子力学は、ミクロの究極まで「分けていった」結果として、素粒子レベルでは、すべての存在は波動であり、粒子でもあり、そのどちらかであるかは確率によって決まるということを解明しました。

そして、それはミクロの世界だけではなく、フラクタル的（入れ子構造的）にすべての時空に適用されるのではないかとされています。



入れ子構造

マルチバース、量子テレポーテーション、重ね合わせ

現在では“ゼロ（＝中庸）のところにすべてがある”という、いわゆる「ゼロ・ポイント・フィールド仮説」が有力視されています。

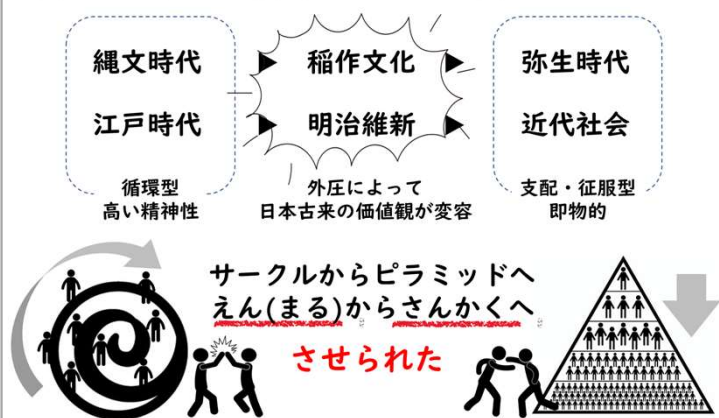
これは「思考は現実化する」ということです。

「科学」は追求すればするほど、従来はオカルトとされていた領域に、踏み込んでいかざるを得なくなりました。

別の角度から真理を追究してきた「宗教・哲学」が遺してきた数々の示唆が、事実であったことを証明しつつあります。

その② ○⇨△⇨○へのパラダイムシフト

循環から支配へと変遷した日本の歴史



縄文と江戸に学ぼう



「和」の精神を重んじる日本では、古来から循環型の社会が形成されてきましたが、外圧によってその価値観が変容されてしまうという歴史が繰り返されてきました。

なかでも稲作文化の伝来と明治維新は、○（循環型）から△（支配型）へと変わる、大きなエポック・メイキングとなるできごとでした。

現在は、それらの揺り返しとして、再び△から○へと社会が変わる、パラダイムシフトのタイミングにきています。上述した科学がそうであるように、今まで分けられていたものが再びつながっていく流れです。

縄文や江戸のような循環型の社会。縁、絆、結・・・「いとへの時代」ともいえるでしょう。

今回のお話はいかがでしたでしょうか。
なんとなくモヤッとしていたものが晴れて、腑に落ちた方がおひとりでもいたなら、それで十分だと思います。

では、今後はどうしていくのか？

次回からは具体的なコミュニティ・デザインの手法についてご紹介していきます。（たいこん）